

6. 乳歯, 幼若永久歯に対する Indirect Pulp Capping の臨床観察

増田 純一 (福岡市・開業)

乳歯や幼若永久歯の生活歯髄は、極力保存すべきことは当然であるが、特に深在性の乳歯齲蝕などでは、臨床の場において小児治療の困難さや、術後の不安などのために“一步先の処置”として生活歯髄切断、抜髄などがなされていることが多い。しかし、適正な薬剤を用い、完全な処置を行ったつもりでも、その予後は必ずしも良くななく、歯髄を直接処置することはできるだけ避けたいものである。

そこで、臨床症状や所見から判断して、できるだけ可能な限り深在性齲蝕の乳歯や幼若永久歯の歯髄を生活状態で保存し、その機能を回復させることが重要であり、そのために“一步手前の処置”として、Indirect Pulp Capping は有効な手段であると思われる。Jordan らは98%、Dimaggio らは97%、栗山は97%、といずれも高い成功率を報告しており、私の臨床観察でも、患者数45人(年齢1才10カ月より11才1カ月まで)の上顎乳臼歯17本、下顎乳臼歯42本、幼若第一大臼歯5本、総数64本の深在性齲蝕に対して、ダイカル、カルビタールの水酸化カルシウム剤を用いた Indirect Pulp Capping を行い、7カ月より1年5カ月にわたり臨床的ならびにX線的観察の結果、良好61本、不良3本、成功率95.3%であった。不良3本の内訳は、1本は術前の診断ミス、他の2例は封鎖の不完全さによるものであった。